

満洲煙草界の現状と

日本煙草の発展必勝策

国立国会図書館



始



L134-9

327
675

滿洲
煙草界の實狀と日本煙草の發展必勝策

327-675

はしがき

日本煙草の對滿洲發展策は取りも直さず英米トラストとの競争を意味す、眇たる吾人の實力を以て彼の二億の巨資を擁するトラストを驅逐せんとするは、尋常人の甚だ之を危しとする所なるべし。雖も吾人には窈かに胸中の成算なきに非ず。巍峩たる煉瓦造りの高樓、滋味豊富なる洋食、華美なる洋服、自動車と謂ふが如きは是れ、彼等歐米人の活動に必須缺く可らざるものなり、之に對して吾人はバラツク、梅干、裸一貫、脛一本にて挑戦するも毫も苦痛を感じず。且つや言語を習得するにも我の勞する處は彼の十分の一にも及はず、所謂同文同種の恩惠あるをや。

寡以て衆に當り、貧以て富と争ふには勤勉力行に加ふるに事情に精通するの智識を要するのみ、之を措きて他に必勝の策なきなり

著者 寄贈本

大正
11.16
寄贈

此稿記述する處甚だ簡單なれど以て裸一貫脛一本主義の必勝策を梗概するに足らば筆者幸甚國家萬歳なり記してはしがきとす

京城南山々麓の寓居にて

大正三年八月二十八日

廣 江 澤 次 郎

謹で白す



滿洲煙草界の實狀と日本煙草の發展必勝策

目 次

支那に於ける紙卷煙草の需要狀況……………	一頁
南滿洲の煙草界事情……………	六頁
東亞煙草會社の不振事由……………	一一頁
朝鮮葉煙草の前途……………	二五頁
東亞煙草會社の發展策……………	二七頁
結 論……………	三二頁

滿洲煙草界の實狀と日本煙草の發展必勝策

朝鮮煙草製造業者
同志會々々長 廣 江 澤 次 郎

支那に於ける紙卷煙草の需要狀況

支那に於ける煙草問題は、最早筆舌の時に非ず。煙草業者は蹴然奮つて母國外務省の保護と輿論の後援に依り、支那政府の專賣隱謀を制するに共に、側面よりはトラストに對して猛襲を敢行するの好機に際會せり。乃ち先づ一部南清に、彼の勢力を牽制し乍ら、滿蒙より急速にトラスト煙を驅逐し、霸を中原に爭ふは商略の最も妙を得たるものなり。然れども英米トラストにして、吾等の不撓不屈の精神に敬意を表し、寧ろ、日英煙草同盟を結び吾人と相提携して、此の有利有望なる煙草事業を、共同經營せんとならば吾人は是に賛同するを辭せざれども、トラストにして飽迄壓迫的態度に出で



んさならば吾人は之に對し逆襲の決心を定め、全支那に於て彼の商權を驅逐するを期せざる可らず。日本煙草の失敗は輒ち國威の失墜なり、況んや官煙を標榜し居る東亞煙草の敗衄は事外交の失敗と相關し、支那の對日人心に影響するもの少なからず。現に今春四月來支那煙草專賣事件に就き、日本政府は、再三再四、彼に警告を與へ居るにも不拘、袁政府は、トラストを重視して、日本煙草の勢力を眼中に措かず、傍若無人にも、紙捲煙草專賣條例を作製し、紙捲煙草專賣局を設置公表の手順に迄運び居に非ずや、吾人は日本煙草軍不振の原因を探索するに先ち、支那に於ける紙捲煙草の需要狀況を最近五ヶ年間の輸入統計に徴せんに、

紙捲煙草輸入額

○本數は千本單位とす金額は便宜日本貨幣に換算す

○一、九一二年迄は一海關兩壹圓四拾八錢
 ○一、九一三年は標準率壹圓四拾七錢とす

年 號	純 輸 入 本 數	純 輸 入 金 額
一、九〇九	三、一〇二、七三九 <small>千本</small>	八、一四二、五八七 <small>円</small>
一、九一〇	三、七二三、五四五	一〇、二二五、三三四
一、九一一	三、八三七、〇七九	一一、二三五、一〇〇
一、九一二	四、三三九、七八二	一二、八三六、〇一九
一、九一三	六、二〇九、〇三七	一八、五〇六、二七一

支那の大官有識者等が捲煙の前途を恐れ或は禁煙を怒號し、或は排外熱を鼓吹して、其需要を阻止せんご試みしも其需要の趨勢は滔々大河を決するが如き勢を以て、斯の如く激増しつつあり、今後四億の民が歐米の流行を趁ふに至りし後の需要額は、蓋し更に莫大なるものあらん、然に大勢の斯の如くなるに際し獨り日本煙草が萎靡として振はざるは眞に吾人の遺憾に堪へざる所なり左に

關係尤も深き四五ヶ國よりの紙卷葺の輸入額を見んに。

四

年號	國別	英	露	國	北米合衆國	日	本	北米加奈太
一九〇九		三、六三三、七三三 ^円	一、二四九、二〇 ^円		一、七三三、三六 ^円	八七九、一〇三 ^円		
一九一〇		五、九九三、二六一	一、〇六、五六六		一、四三二、九九九	八九四、五六八		
一九一一		七、一四四、五五六	一、三三三、五三二		六三八、一八七	一、一八二、五八八		一、二〇、二三三 ^円
一九一二		八、一九〇、五三二	一、四七二、三三〇		五二〇、三三三	六五五、八四六		八四三、〇四五 ^円

英國は上海、漢口、奉天等の大工場にて製造し居る外に、實に如斯多額の輸入をなしつゝ、有り而て其輸入額の増進眞に驚くに堪へたり。露國亦相應の輸入ありて増加の傾向あるは注目し價す、次に北米合衆國に就て見んか、年々著るしく遞減の觀あれども一方に於て突然千九百拾壹年以降加奈太より輸入の途開け、意外の効果を收め居れる結果に非ざるか。北米合衆國の遞減を加奈太よりの輸

入額にて補填せんか優に昔日の倂を偲はしむるに足る、乍併吾人の聞く處に據れば、英米トラストも近來互に閥をなして、勢力争ひをなし居る由、特に英國派と米國派の軋轢甚だしきやに聞く、右の表れたる數字は個中の消息をも幾分語り居にはあらざるなきか記して是を後日に徴せん。〔東洋にては英國派跋扈す而て其英派の内本土派と蘇嶋派互に閥をなし勢力扶植に努め居る由人情は何處も同じ〕

扱て日本よりの輸入額は露國の夫よりも遙かに劣り千九百拾貳年度の如き半額にも満たざるは、實に憤慨に堪へざる。次第ならずや或は辯じて曰はん、其は成べく營口の東亞工場にて製造せしめ日本よりは出さぬ方針……と吾人も斯かく聽くや久し、然れども其東亞煙草が滿洲の生産と消費の膨脹に伴はず萎微として振はざるの實狀を呈しつゝあるに非ずや、兎に角煙草を以て生命とし日本煙草の世界的發展を理想となし居る吾人は意氣地の上よりも奮勵一番數年の内に英國に相拮抗するの域に到達せざる可ら

五

ず次に朝鮮よりの輸入額は其額や少なりと雖も、其急激なる發展は又以て前途の有望を立證し居るに非らずや、其額も少しは云へ獨逸及佛蘭西を遙かに凌き居る點聊か誇るに足らむか。

年號	國名	獨逸	佛蘭西	朝鮮
一九〇九		二〇、〇一五 _噸	九、八八七 _噸	九、六一八 _噸
一九一〇		二九、六二九	三七、八二二	五四、〇七三
一九一一		一五、一九二	一八、〇六九	六五、八六〇
一九一二		一五、七七五	六、一七三	一二七、六九二

南滿洲の煙草界事情

先づ南滿の咽喉を扼したる大連の埠頭へ陸揚さる、數量を見よ
大連港紙卷煙草輸入噸數(但若干の葉卷^{シガ}を含む)

年號	仕入地	日	本	上	海	支那各地	歐	洲	朝	鮮
一九一〇		二、〇〇八 _噸				一、四一五 _噸		一三三 _噸	二五 _噸	六九 _噸
一九一一		二、九四二				二、八三七		一〇八	二二	一九九
一九一二		一、三〇二				八、二四九		二五五	二五四	三一〇
一九一三		二、一一二				六、二五二		六〇	一八九	一一六

營口に於ける東亞の工場と奉天に於けるトラストの工場にての製産力同一と假りに見るも歐洲よりの輸入を別とし、上海よりの輸入數量の激増は實に寒心に堪へず、由來事大思想に慣れ居る支那人に蔑視され發展は愚か益々窮境に陥るは實に帝國の威信に關す、勝敗を以て時運のみならず事勿れ勝つべき原因あり、負くるには又負くるの事由存す、吾人必勝策を講ずるに當つて先づ親しく踏査し來りし南滿洲に於ける各煙草軍の陣營を窺は

んに。

會社名	本據地	總司令者名	備考
英米トラスト	東洋總司令部は上海にして滿洲にては奉天	ストックウエル氏	過般燒失せし奉天の工場再築中
協和貿易公司	本據は上海、滿洲にては奉天	ミツチエル氏	トラストの別働隊にしてハルビンに工場建築中
東亞煙草會社	總司令部は營口なりしも七月より奉天に移す	川村桃吾氏	工場營口に在り
東洋煙草會社	本據は上海	ヒリツア氏なるも本人は常に上海に在り	滿洲の一手販賣を中法煙公司に委任す
三林煙草公司	奉天	岩谷二郎氏	工場奉天

以上の五勢力互に厄鬼となりて相角逐し滿洲の天地に火花を散らし居れり、又此渦中には投せざるも、兎に角多少の商品を出して機を覗ひ居る朝鮮煙草團あり、而て此朝鮮煙草の大部分は大連の旭商會之を取扱居れり、尙此外に天津に本據を有し滿洲各都邑に支店を設け葉卷煙草と金口卷莢を盛んに販賣しつゝ、有る、プロト

バス有り、大連には東洋人に最も克く其名を知られ居る金口莢MCC印の滿洲一手を引受け居るバイヂス等有り、刻莢業者には蘭茂魁、蘭茂厚、泰合慶等有れども卷莢に壓倒され頓と振はず而して蘭茂厚とは三林煙草公司の別名なり、
扱て左に滿洲の五勢力の首腦者を訪れて感せし事を簡単に記さん。

●●●●●●●●
ストックウエル氏は四十の阪を少し越したる分別盛りにして見るからに奮闘家の素質を供へ其應對振りのハキ／＼して親切なる點及幾十の社員を手足の如く働かず操縦振り敬服の外なし、同氏は此奉天遼寧東縣の支店長なりしも其商賈實に巧妙にして同地のトラストの地盤を一層強大ならしめし功により、特に拔擢されて今回奉天總支配人に榮轉せし由

次にトラストの別働隊なる協和貿易公司の隊長ミツチエル氏は此五月頃迄朝鮮のトラスト總支配人として豪快なる奮闘振りに敵も味方も賞賛を禁じ得ざりし程の辣腕家なり予と私情に於ては頗る親善なる間柄の事とて往訪を非常に喜び

打解けて會談す、得る所甚だ多し、彼は目下ハルビンに工場を建築中の由、更に川村桃吾氏を訪ひしも未だ天津より來奉されず、次席の保々勉氏營口より引揚草々の事とて多忙の際にも不拘喜で面會され互に胸襟を開ひて語る、流石は滿洲及北清にて多年苦勞したる人丈、他に他の東亞社員に多く見るが如き吏臭なく、好箇の奮闘家なるべしと思はる、當日面會を得ざりし川村總支配人は世評に依れば温厚着實なる紳士の由、

更に轉して東洋煙草會社に到らんとするも社主のヒリップ氏は上海に有て本據地を離るゝ能はず、滿洲には夫れ〳〵代理店ありしも今回奉天の豪商連は中法煙公司なるものを設立して東洋煙草會社の東三省一手販賣權を握り、滿洲全土に向て大活動し、今や容易に悔るべからざる勢力となり居れり、

因にヒリップ氏には露亞銀行の後援ある由、又中法煙公司是東洋煙草會社に貳萬元とかの信認金を積有るやに聞く、最後に三林煙草公司を紹介せん、

三林公司是滿洲に於ける卷煙草製造業の開祖にして、又日支合辦の急先鋒なり、未だ美なる成功の實は結び居らざるも、寧ろ其功を急がざる點は將來非常に有望と云はざる可らず、代表者岩谷二郎君は岩谷松平氏の令甥にして、年齢漸く三十才な

るも、夙に支那發展の雄圖を抱き、日本政府の專賣施行と同時に岩谷家の忠臣森井忠彦氏及植竹某氏と共に去三十七年の十一月に天津にて岩谷商會と稱して捲貫製造業を開始せしも、三十九年に至り當時奉天に於て飛ぶ鳥落す勢なりし東三省商務總會總理滿洲商業會議所會頭趙某氏との間に合同談成り、奉天に引移りて今日に到り居れり、植竹氏は身蒲柳の質の事とて歸省せしも、森井氏は十年一日の忠節を竭して岩谷君を誤らしめず、岩谷君と云ひ、森井氏と云ひ、共に現代青年の師表と稱し得べし、而して吾人は斯る模範的青年の事業は國民的にも努めて之を援助するの義務あるものと信す、因に趙氏は後病に仆れしに付、商務總會理事長魯棣琴氏之を引繼ぎ居る由、

東亞煙草會社の不振事由

吾人は國家的觀念の上よりして、日本煙草業者の總本家たる東亞煙草の全勝と繁榮を祈らざる可らず、乍併東亞煙草の滿洲に於ける成績は甚しく、吾人の期待に背き居れり、今其不振の事由を繹ねんか、吾人は左の三點に歸着し居るものと信ず、

一、陣を布くに當つて地の利を得居らざる事

二、人の和を得居らざる事

三、戦の術即ち競争の秘訣を知らざる事

先づ第一に地の利を得居らざる事を謂はんか元來煙草は日用必需品にして流行品を兼ね居ものなり、流行品は原則として上より下に流るゝ者即ち都會より田舎に行渡るものなり故に滿洲の煙草權を握らんとするか先づ以て南滿に於ては奉天に北滿に於てはハルピンに城砦を築かざる可らず、

斯くしてこそ始めて南北滿洲に覇を稱ふるを得又他日蒙古に於ける流行の因をなすものなり、是れ流行品の原則の教ゆる配陣法にして、又世態人情の根源より割出したる戦略なり、日本の民製時代に例を採らんか村井兄弟商會の雄を以てして尙且晩年京都より東京に本營を移せしに非すや大阪の大商人種の敏捷を以てす

るも煙草取次販賣人には幾多の成功者を出せしに係らず製造家としては殆んど零びなりき東京の流行は其年中に大阪に波及し翌年九州に移ると聞く、煙草界の三奇傑と稱せられし村井、岩谷、千葉の三氏が先づ以て東都に全力を注ぎし事は個中の消息を充分に語り居に非ずや、然るに、東亞煙草は敗殘の營口に本據を占め滿蒙の天下に號令せんとす豈に夫れ得べけんや是に依て此を觀れば勝敗の數は四十二年東亞が本據を爰所に構へし時既に決したりと謂ふも過言に非らず、英米トラストは流石に世界の覇者たるに耻ちず、先づ支那全土に活躍の策源地として上海に地を相し京漢線と粵漢線の全通を見越しては今日にても既に九省の會と稱せられ其殷富繁盛並びなき漢口に堅壘を築きて他の侵入を防ぎ又滿洲を屠らんとしては奉天に宏壯なる工場を設く、此點丈けにても吾人は彼の卓拔なる戰略眼に推服せざるを得ず更に吾人は

彼の深謀と周到なる用意に驚くものあり、何ぞや彼が支那名物の排外運動に供ふる爲め別働隊として異体同心の協和貿易公司を提げ居る事これなり、然して又今年五月焼失せし奉天の工場を再築するに當つて他日此災を繰返すとも遠く上海の供給を仰くの煩を避けんため北滿の政治的中心點にして又經濟的中心點たるハルビンにも協和貿易公司の工場を建てしめ南北相呼應せんとするが如きは最も策戰の妙を得たるものなり。之を彼の日に衰退しつゝある營口に工場と總司令部を置く日本官煙東亞煙草株式會社の一本調子と比較し見んか何人も其雲泥霄壤の差も啻ならずを首肯すべし。乍併東亞が今回奉天に總販賣部を移せるは聊か六菖十菊の觀なくんばあらずと雖も吾意を得たるものと云ふべし。吾人敢て辯を好む者に非らざるも聊か營口の衰退を歴史的に述べんに、嘗ては南滿唯一の吞吐港として其繁榮を誇り、蒙古

方面迄も支配し居りし本港が鐵道の開通に依り其生命たる遼河の價值を大いに減じ、又不凍港たる大連の開放は毎年十一月末より三月中頃迄結氷に泣く營口の繁榮を中ば奪ひ去れり、不運は是に止まらずベスト流行の節は病源地と見做され各地方より散々の虐待を受け、又四十一年には滿鐵が海港發着特定運賃率を施行して大連を偏重せし結果凋落は一層甚敷爲に嘗ては支那全市場の金融界を支配したりし彼の山西票號も三年前頃迄は一千萬兩以上放資し居りしが今や三百萬兩を出でざる由、隨て全般の富力の銷磨と人氣の沈衰は豫想以上なり、特に同地名物の過爐銀建の上海向爲替出來高の統計を見るに、

一、九〇九 ^年	三四、三〇〇、〇〇〇 ^兩
一、九一〇	三〇、八〇〇、〇〇〇
一、九一一	二七、七〇〇、〇〇〇

一、九一三
一、九一三
一六、四〇〇、〇〇〇
一三、三〇〇、〇〇〇

吾人は其遞減に驚けり、崇るもの是に止まらず引續き地變相次で
臻り、今や同港は死ぬか活くるかの問題に蓬着しつゝ、あり、地變こ
は何ぞや曰く

- 一、遼河の河水盛に土砂を流して港口を埋没しつゝ、有事
- 一、遼河の本流が是迄支流たりし双臺子河に流れ始めし事
- 一、遼河の流水が營口の對岸支那側停車場の地峽を突破して
大河に出でんとする傾向ある事

今や河口の狹長なる航路は、干潮時に水深漸く七呎を有するのみ
こ、是れ營口官民が死活問題として浚渫を絶叫せし所以なり、然る
に愈々八月二十三日より輸入貨物並に船舶に對し海關附加税を
徴し港口の浚渫を爲す事となりし故多少の面目を改め來らんも

此附加税の爲め貨物及船舶は道を大連に採るもの一層増加する
は免れ得ざるべし、次に遼河の本流が双臺子河に流れ始めしに付
昨年冷家口に大なる閘門を設け之を防がんこせしも双臺子河下
流人民の苦情甚敷き折柄大洪水の爲折角の閘門も押流され其儘
となり居れり、是が原因となり今や潮水は満潮に際し奥深く營口
側を浸して營口水道の水源地に鹹水を漲らすに至れり、第三は悲
觀論者の憂ふる所杞憂に過ざらん、然れども此杞憂にして杞憂の
みに止まらざらんか營口は方に一大湖澤化し終るもの云ふべ
し、又對岸の連山灣か不凍港たり得るや否やは暫く疑問とするも
其築港完成の曉には更に營口に大打撃を與ふるや必せり、吾人は
茲に到つて營口民及一般識者と共に日本の勢力地域内に有る營
口の繁榮を維持するの策を講ぜざる可らずと雖も、東亞煙草が總
司令部を茲に置きたるは大失態たるを蔽ふべからず、

備考 南滿洲にて日本人一千以上の集團地(大正三年五月調)

地名	戸數	人口
大連	九、九四二	三七、一一〇
旅順	二、六二五	九、八〇九
安東	二、二七六	七、九〇五
奉天	一、八七六	六、八四〇
撫順	一、五一五	五、七七三
長春	一、三八〇	四、二八八
遼陽	一、二三六	三、九〇二
鐵嶺	一、〇六五	三、〇六八
本溪	九二七	三、〇三五
營口	八〇二	二、五九四
公主嶺	八五四	二、五七四
大石橋	六二九	一、九九四

瓦房店	六二七	一、八三〇
開原	四七六	一、三八五
金州	四七〇	一、四〇一

但し軍人と朝鮮人ごとを除く

次に東亞が人の和を得居らざる事に就て謂はんか吾人は世評を悉く信ずるものに非ざるも製造所側販賣部側を問はず互に融合協力してトラストに對し必勝の覺悟に乏しき事は事實なり而して會社なるものの共通の缺點たる責任の投げ合ひをなし罪を免れんごし居るも事實なるが如し又重役連が成績の擧らざるに業を責やし盛に敲首するも亦蔽ふべからざる事なり、如斯内に結束一致の實なく外に戦術の妙なくして如何でかトラストの大ご熱烈ごに當り得べけんや

第三の競争の秘訣を知らざる事に就て謂はんか東亞は商是を常

に二様に別たざる可らず

一、日本人向としては絶対に口付卷莨の全盛を期する事

一、支那人向としては極く安物を主とし優良品を従として進

む事

第一の口付卷莨は實に日本煙草の獨占的特技に依るものにして又東亞煙草の營養品たり、然るに東亞は此大切なる口付莨の腐敗品を盛んに賣り飛ばして己の刀にて己の身を傷むるの愚をなせり兩切莨の腐敗品は暫く別問題とするも吾人は腐敗して臭き敷島や黴の生へて白くなり居る山櫻を賣りて東亞か幾千を利益せしやを知らずと雖も日本政府より特種の保護を蒙り居る大會社の爲すべき仕事に非ず特に是によりて東亞會社の名譽と口付卷莨の品位を失墜せし事幾千ぞや商標は是れ財産なり然に東亞は如斯して其財産を一層減少せしめつゝ有り是を又商業道德の

上より見るも豈に輕々に看過し得べけんや、又口付莨の全盛を期せんとせば人口の上より云ふも日本の政策の上より案するも大連に力を注かざる可らず、滿鐵の本社や都督府が奉天に移り而して奉天の日本人人口が大連を凌ぐに至らん曉はイザ知らず先づ夫迄は在留日本人の流行の源泉地は大連なり、是を閑却して滿洲に有る日人の流行を贏ち得るの理なし吾人は滿洲に遊ぶ毎に東亞の大連に於ける活動が頗る手緩きを感じ大に之を遺憾とするものなり、吾人若し奮闘努力により在留日本人に向つて口付卷莨の全勝を得んか此成功は後日日人益々勢力を得ること共に順次支那人間にも波及し行ものなり是を南滿に於ける露國全盛時代の活例に徵するも彼の細長くして口紙と莨と相半ばし居る値段高きロシヤ卷莨は各方面にて盛に歓迎され他を壓し居りしに非ずや事實夫れ程能き者なれば今日にても尙賣行盛んなる筈なるに

南滿にては今や辛ふじて哀れなる殘影を市場に止むるに過ぎず然るに今日にても足一ト度、寬城子を越へてハルピンに行かんか相變らずロシヤ卷全盛を極め在留日本人迄も皆嬉々として是を吸ひ又支那人の如きは日常吾々の口にする卷莢をペーチカ(露西亞)の太き圓筒狀の暖爐と稱して嘲笑しロシヤ卷を喫す、かく北滿に於ては露西亞の勢力は煙草に迄及び居れり、されどロシヤ卷を謳歌せし是等の人も露の勢力範圍を脱して南下せんか嘗ては分量多きに過ぐさか或はペーチカださかさ評して排斥せし日人も亦支那人も普通の卷莢を喫して平然たり此間の群衆心理は吾人深く味はざる可らず畢竟日本煙草は日本の國威に併行するに間違なきものなり既に朝鮮は此實例を示し居れり豈に努力せずして可ならんや

乍併飽迄慧敏なるトラストは來るべき大勢を看破して駭々乎と

して進み行く日人の勢力を利用せんさ先づ大連に日本人の特約店を設け美麗なる硝子戸棚に英國製の上等捲莢を陳列して是を各俱樂部及旅館等に並べて廣告に努め又種々なる機會を利用しては上級品を惜氣もなく蒔散らして専ら日本人側の蠶食に熱中しつゝ、あり是れ大いに警戒せざる可らざる一大事ならずや特に記して注意を促す次に純支那人向さしては極く安物を主とし優良品を従として進み大勢を一應日本軍の特色とする口付に誘致し來る迄は兩切莢にて戦はざる可らざるや論なし東亞も亦此方針に向つて進行しつゝ、有ものゝ如し然るに東亞は兎角變化の術即ち機に臨み變に應ずるの法と大勢を達觀するの眼識に乏しく隨て敵を奔命に疲れしむる等の奇策なく又敵の二〇三高地に強襲を敢行する等の勇氣を缺くの觀あるを憾みさす先づ奉天市場に於ける兩切莢の巨星に就て謂はんか折角成功し居る蜜蜂票

は稍ともすれば凋落してトラストの同級品燕票全盛を極めんとし又最近には協和貿易会社の雙魚票及三林煙草会社の雁子票等盛んに安物界を跳梁しつゝあり是等の盛衰消長を常に研究し置き今後機先を制するの資とすべきなり轉じて上級品界は不相變海賊牌全盛にして東亞の鳳梨牌及協和貿易会社の紫金山等大いに販賣に努むるも頓と成蹟の見るべきものなし然に茲に意外なる奇効を奏せしは東洋煙草會社の白刀牌にして今や奉天よりパイレートを驅逐せんとし其勢い侮る可らざるもの有り是れヒリツプ氏の技術に倚るか滿洲一手販賣を引受けし中法煙公司の手腕に預るか孰れにしても東亞及吾人等は製造の術と販賣の法に今一般の進化をなし上級品に成功してトラストに致命傷を與へ彼の營養線を一日も早く絶たざる可らず東亞は既にトラストの勢力驅逐の使命を帯びて滿洲に踏入りてより拾年に垂んとする

も此間果して彼の弗箱に幾千の打撃を與へしや又與ふべく幾千の努力せしや是れ吾人か併せ記して東亞は競争の秘訣を知らずと斷ずる所以なり乍併吾人は過去を深く難ずるを止め日本煙草軍の必勝策につき歩武を進めんも茲に根本問題に付朝鮮總督府に懇願するの一事あり

朝鮮葉煙草の前途

其は他に非ず現在にても獎勵し居らるゝも一層葉煙草の増産と品質の改善を圖られ度きものなり特に總督府に於て試作し非常なる好成績を收め居らるゝ忠州の亞米利加葉の如き又京畿道の龍仁の如きは出来る限り迅速に之が増産を計り吾人をして上級兩切莖の成功を輔けられ度ものなり又南鮮に於ける日本種の黄色葉と一般在來の韓葉は支那葉の脆弱にして不廉なるに比し價

格葉質、製造歩止まり等兩切として優り居れり口付向として在來種の品質向上を圖る外に是非共南鮮に於ける日本種の指導に努められ完全なる日本葉煙草の成功を期せられ度ものなり、支那も各地に良葉を産し就中吉林及長江の上流各地方のものは其産額の豊富と品質の優を以て鳴るも吾人は多年の實驗上朝鮮産を優れりとなすものなり畢竟吾人の壯圖の成否は朝鮮總督府の葉煙草に就ての援助に俟つ處多し、勿論總督府に於ても茲に着眼せらるゝ事古く、各地に試作場、耕作組合、煙草倉庫等を設けられ盛んに指導獎勵され居るも更に、一層上下一致して日本煙草の世界的發展を理想となし居る吾人の後援者たられん事を茲に改めて切望する次第なり而して葉質の輸出に就ては乾燥法も勿論の事乍ら特に茲に注意を仰ぎ度は何ぞか荷造法に一新機軸を出して完全なるものとし度事なり吾人はマニラよりも土耳其よりも亦亞米

利加よりも葉質を取寄せしが孰れも荷造法完全と云ふ能はず、特に亞米利加葉の如きは往々容器大破し居り甚だ迷惑する事あり吾人の知る範圍にては支那産宿松葉の如きは外包の南京袋こそ感心せざれ先づ以て理想に近きものとして推稱するを憚らず。

東亞煙草會社の發展策

斯の如く觀じ來りて日本煙草の發展策を實行せんご欲すれば、吾人は先第一に其主力たる東亞煙草の奮發を希はざる可らず、是れ單に同會社の爲に慮るに非ずして邦家の爲に慮る處あればなり東亞側の者動もすれば銀相場の變動に膽を冷し通貨の不確實を嘆じて逡巡し遂に近來益々營業方針を消極的ならしめんごするが如し然れども此支那の不治の病に辟易する位ならば寧ろ支那を放棄するに如かず元來支那の通貨を貨幣と思ふのが御同様大

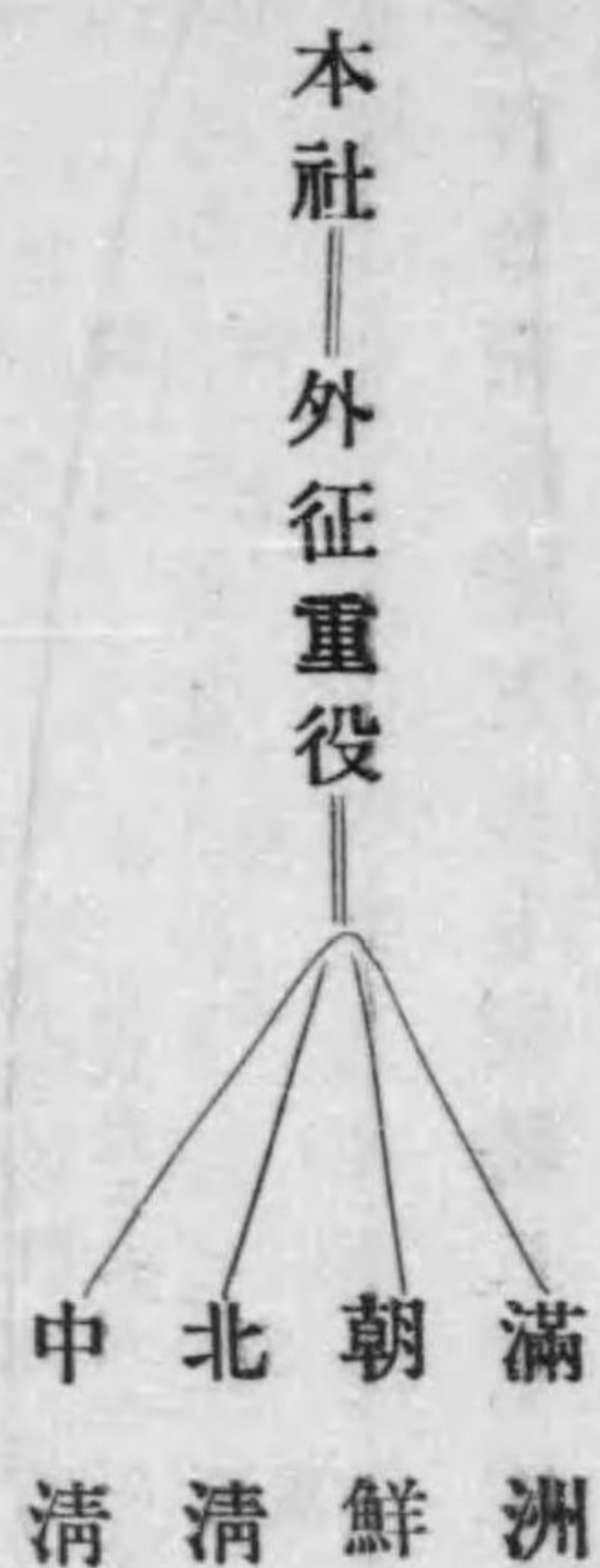
間違なり、支那の貨幣は商品なり故に我々の取引は最初より物々交換として常に頭を二様に働らかせざる可らず、結局吾人は内外共兕町式に尤も機敏に立廻りて儲け乍ら外煙驅逐に成功せざる可らず左に述べんとする發展策は謂ふ迄もなく積極的のものなり

一、頭腦圓熟老成し兼て主將の資質を供へ居る人格高き重役も最も秋霜烈日的にして少壯敏腕なる參謀官を滿洲に派遣し多年停滯消沈し居る東亞の空氣を一新すべし

(本社を支那に移せと絶叫し度も斯は餘程の大問題なるまゝ暫く漸進主義の改革案發展策となし置く)

一、外征したる重役は大連に駐在すべし而して支那と朝鮮に於ける營業權の委任を受け置べし、
一、軍區を左の四に別ち各軍區に部長を置き外征重役之を統帥の

事



一、部長は識見手腕共に卓拔なるを要するも特に武士道的人物にして、日本煙草の世界的發展を理想となし居る者なる事

一、朝鮮は東亞の營養線なれば部長の撰擇に注意するは勿論なるも現在の所謂民軍を統一して特別任務に服せしむる事(後段參照)而して東亞は先づ以て朝鮮に不文の專賣法を敷くを要す

一、朝鮮に於ける東亞の販賣機關は孰れの處も先づ第一流の商人なるのみならず又今日にては交通機關も整ひ居れば現在の如く各地に仰々敷販賣所を置くの必要なし徒に經費嵩むのみなり

り、而して平壤と全州の工場は閉鎖すべし、是亦無用の長物のみ
但し地方の販賣所の大部分引揚後は京城なる司令部の活動振
は一層機敏なるを要する事勿論なり

△、各軍區の總司令部と工場及別働隊所在地を左の如くすべし而
して樞要地には分隊を置くべし

軍	區	總司令部所在地	工場所在地	別働隊所在地	備	考
朝鮮	京城	京城	京城			
滿洲	奉天	奉天	奉天	三林煙草公司を 味方とすべし		
北清	天津	北京	北京	北京優るか天津が是か近日實地精査の上更に意見を述べん		
中清	上海	上海	上海			
	海	廣漢	東口			
						ハルビンにロシヤ巻工場を設 ける準備をすべし

漢口と南清廣東にも同時に活躍し度も之は却て失敗の基なれ
ば先づ以て別働隊を派遣して十分凡てを調査研究せしむべし

而して此別働隊には在朝鮮の民軍を利用すべし、
尙茲に注意すべきは上海なり上海は外煙の總根據地なり故に
敵煙擧つて東亞の進入を妨害すべければ茲には最も機略に富
たる鬪將を派遣し克く敵を牽制し且つ本隊南下の節の地盤を
用意せしむべし又青島と洮南府の將來につきては注意を怠る
べからず

一、經費徒らに多き從來のお役所式經營法を廢し成るべく前垂流
となり上下一致奮闘して成績を擧げ先づ株主に安心を與ふる
と共に此有利有望なる煙草業の趣味を深く感ぜしむべし斯く
せば他日千萬貳千萬の資金を集むる事斯かく困難ならざらむ
傳へ聞く村井吉兵衛氏嘆して曰く「專賣後隨分幾多の事業に關
係もし亦經營もせしが未だ嘗て煙草業程面白くして有利なる
ものを見當らず」と煙草屋として成功の隨一人なる同氏の言亦

頗る味ひ有るに非ずや、

扱て吾人は東亞發展の根本方針に付上述の如く無遠慮なる進言を敢てせり幾分にも東亞を益し日本煙草の發展に資するを得ば望外の幸なり、此他の私案は他日の機會に譲るべし。

結 論

予が滿洲視察中は歐洲大動亂も未だ初期なりき乍併流石の大英米トラストも何さなく憂愁の雲に蔽はれ安んぜざる趣き有りき茲に於て吾人は緊禪一番此虛に乗じ外煙の驅逐に成功せざる可らずと深く心に誓いたり然るに其後風雲は益々急となり意外にも東洋に迄波及し愈々八月廿三日日獨の國交斷絶となり同時に日本軍隊の大部隊は續々滿洲及北清各地へ入り込めり、吾人は國交斷絶を悲しめど却て東洋永遠の平和と日本煙草が一大天佑に

浴せし事を喜べり、日本軍隊の進み行く各方面は後日必ず日本煙草の流行地となる事是を日清の役に見るも日露の戦に徴するも瞭然たり、吾人は此絶好の機會を逸して可ならんや、吾人は最早躊躇の違あらず左の四階段を知るのみ

一、斷

二、實行

三、期必勝

四、死而後已

今や忠勇なる吾軍隊は身を忘れて東洋永遠の平和の爲外征す、吾人如何でか安閑たり得べけんや、林子平先生は己を盡すを忠と云ふ、君に事へて死するも己を盡すなりと訓へらる吾人先づ以て日本煙草の爲め己を盡して忠の入門をなすべきなり。小題大做の言に似たりと雖も亦煙草業者として最善を盡すの道は是に存すべ

きなり。(畢)

(日本煙草の前途を思ふ熱情の餘り前垂の分際をも顧みずして本篇を草す文の生硬亦深く咎めらるゝ勿れ)



大正三年九月二日印刷
大正三年九月六日發行
大正三年十一月十一日再版

(非賣品)

著者兼發行者 京城長谷川町百六十番地 廣江澤次郎

印刷者 京城旭町二丁目十番地

宗像イッ

印刷所 全

京城印刷所

轉載は
御隨意

本稿に反對の御意見も有之候は、存分御指教願度候尙姉妹編たる
「朝鮮煙草界の實狀と對支發展策」御入用の御方は御申越被下度候

L-3H-9

終